

地域への愛着による他地域へのあこがれ低減効果に関する研究

東北工業大学工学部都市マネジメント学科 学生会員 ○東瀬昇大
正会員 泊尚志

1. はじめに

わが国では、東京一極集中が全国的に問題視されている。最も転入超過の盛んであった高度経済成長期と比較すると減少しているものの、近年の人口減少を踏まえると、十分高い数値であるといえる。東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）の転入超過数を年齢5歳階級別にみると、転入超過数は20～24歳が最も多く7万5103人¹という、数値を示していることから、大学生の就職を伴う移動というのが問題となっていることが読み取れる。この移動の理由として一般的に地元魅力的な企業が少なく、東京圏の雇用機会の豊富さ、給与水準高いことなどが挙げられてきた。地方人口の減少対策として地方拠点強化税、政府関係機関の地方移転¹などが取られている²。今後、人口減少や地方人口減少対策によって、就職移動は解決に向かっていくと予想される。そのため、内的要因の重要度が高まると考えられる。鈴木らは首都圏選択時に最も重要度の高い項目になっている「希望の仕事の有無」「友人知人の存在」を補完した場合に首都圏移動を希望する要因として、首都圏での生活や仕事に対して「憧れ・刺激・経験」といったものを強く感じていることを明らかにした³。今後の地方人口減少対策を検討する上で、内的移動要因である「あこがれ」の抑制が必要である。

2. 仮説の構築

林⁴より、「あこがれを持つ者は現在の生活に対して不満を持つ傾向がある」こと、中川⁶より、「満足度しているほど地域に対する愛着が強い」ことが示唆された。このことから地域への愛着によって、他地域へのあこがれが抑制されるという仮説を立て、萩原ら⁶、鈴木ら⁷を参考に調査項目（表-1）を作成した。

表-1 調査項目

Q2 風土との接触度（「当てはまらない」から「当てはまる」の5段階評価	
a	その地元では鳥や虫の鳴き声を聞くことが多い（多かった）。（鈴木ら）
b	その地元では屋外の空気に触れることが多い（多かった）。（鈴木ら）
c	その地元では道端で花や土など自然のおいさをかぐことが多い（多かった）。（鈴木ら）
d	その地元では地域の人々と交流を持つことが多い（多かった）。（引地ら、鈴木ら）
Q3 地域愛着（選好）	
j	その地元の街並みや自然はきれいだ。（引地ら）
k	その地元には歴史を感じる風景がある。（引地ら）
l	その地元にはお気に入りの場所や特産品がない。（引地ら、鈴木ら）
m	その地元行政は住民のために適切な仕事をしている。（引地ら）
n	その地元には親戚な人が少ない。（引地ら）
o	その地元は住みやすいと思う。（鈴木ら）
Q4 地域愛着（感情）	
e	その地元は大切だと思う。（鈴木ら）
f	その地元には自分の居場所があるのを感じる。（鈴木ら）
g	その地元にはずっと住み続けたいとは思わない。（引地ら、鈴木ら）
h	その地元に対して愛着がある。（引地ら、鈴木ら）
i	その地元の近所の人々は自分にとって大切である。（引地ら）
Q5 地域愛着（持続願望）	
p	その地元にはいつまでも変わってほしくない。（鈴木ら）
q	その地元にはなくなってしまうと悲しいものがある。（鈴木ら）
Q6 他地域へのあこがれ	
r	その地元を出て、今よりも公共交通の便利な場所で生活したい。（鈴木ら）
s	その地元を出て、今よりも商業施設の充実した場所で生活したい。（鈴木ら）
t	その地元を出て、今よりも文化レベルの発達した場所で生活したい。
u	とにかくその地元を出たい。
Q7 性別	男
	女
	答えたくない。 あなたの学年を教えてください。

3. 調査概要

本研究では、地域への愛着が他地域へのあこがれに与える影響について把握するために、アンケート調査を行った。調査方法はWEB アンケート調査で、東北工業大学全学部全学科生を対象に2020年1月17日から1月20日に配布した。配布方法は学内一斉メールで行い回数部数は104部だった。調査項目は表-1の通りである。

4 調査結果、考察

集計は「現在お住まいの地域を地元だと感じる人」と「高校時代お住まいだった地域を地元だと感じる

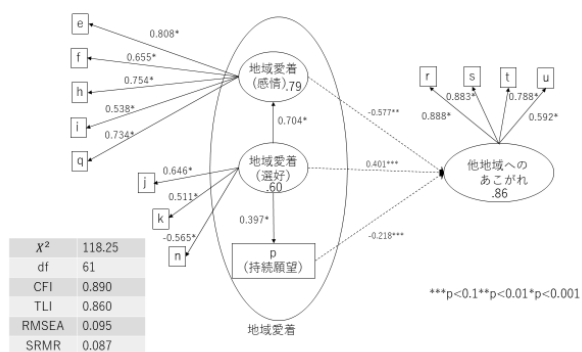
キーワード：地域愛着 あこがれ 人口移動

仙台市太白区八木山香澄町 35-1（6号館4階泊研究室）TEL：080-6038-1209

人」に分けて行った

人」に分けて行い、「高校時代現在お住いの地域を地元と感じる人」が 58 人、「高校生まで過ごした地域を地元とする人」が 45 人となった。「地元がないと感じる人」は 1 名だった。また共分散構造分析を行った。その結果は図-1 に示した。地域愛着（選好：地域への肯定的な評価）自身は他地域へのあこがれの抑制に直接的には正の影響を与え、あこがれへの抑制効果を与えられてはいないが、既往研究通りに地域愛着（感情）や地域愛着（持続願望）に対して正の影響を与えていた。他地域へのあこがれは、地域愛着（感情：離れがたく感じる）と地域愛着（持続願望：地域のあり方そのものに対して願いを抱く）から負の影響、仮説である「あこがれを抑制する」効果が示された。

図-1 地域への愛着が他地域へのあこがれに与える影響



5. まとめ

本研究では地域への愛着が他地域へのあこがれに与える影響について把握するため、大学生を対象に地域に関する意識調査を実施し、その影響について分析した。その結果、少なくとも東北地方から宮城県に移動してくる大学生や宮城県に住み続ける大学生が地域への愛着、特に地域愛着（感情）によって他地域へのあこがれを抑制されていることが示された。また、地域愛着（選好）には地域を大切だと思ふこと、地域を自分の居場所だと感じることで正の影響を与えていることが示唆された。このことから地域への愛着を持つことが、人口流出問題や一極集中問題を抑制するために必要になってくると考えられる。し

かし、地域愛着（選好）は他地域へのあこがれを抑制する地域愛着（感情）や地域愛着（持続願望）を高める効果のほかに、他地域へのあこがれを高めてしまう効果があることから注意が必要である。

今後は、より詳しく他地域へのあこがれへの影響を調査するために、調査項目を再度検討することが課題である。

参考文献

- 1) 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告 平成 30 年（2018 年）結果」
- 2) 第 1 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する検証会資料 東京一極集中の是正について
- 3) 鈴木晶也 谷口宥斗 金利明：若者の首都圏居住志向における新たな要因に関する研究 第 59 回土木計画学研究発表会・講演集 p. 120
- 4) 林洋一：都市イメージに関する要因の分析 総合都市研究第 27 号 pp. 27-34
- 5) 中川 千彰：環境で形成する高槻市への愛着 平成 26 年度社会調査実習報告書 一高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査— 第 23 章 pp. 200-205
- 6) 萩原剛 藤井聡：交通行動が地域愛着に与える影響に関する分析 土木計画学研究発表会 講演集, 2005
- 7) 鈴木春奈 藤井聡：「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究 土木学会論文集 D 64(2), 179-189, 2008